

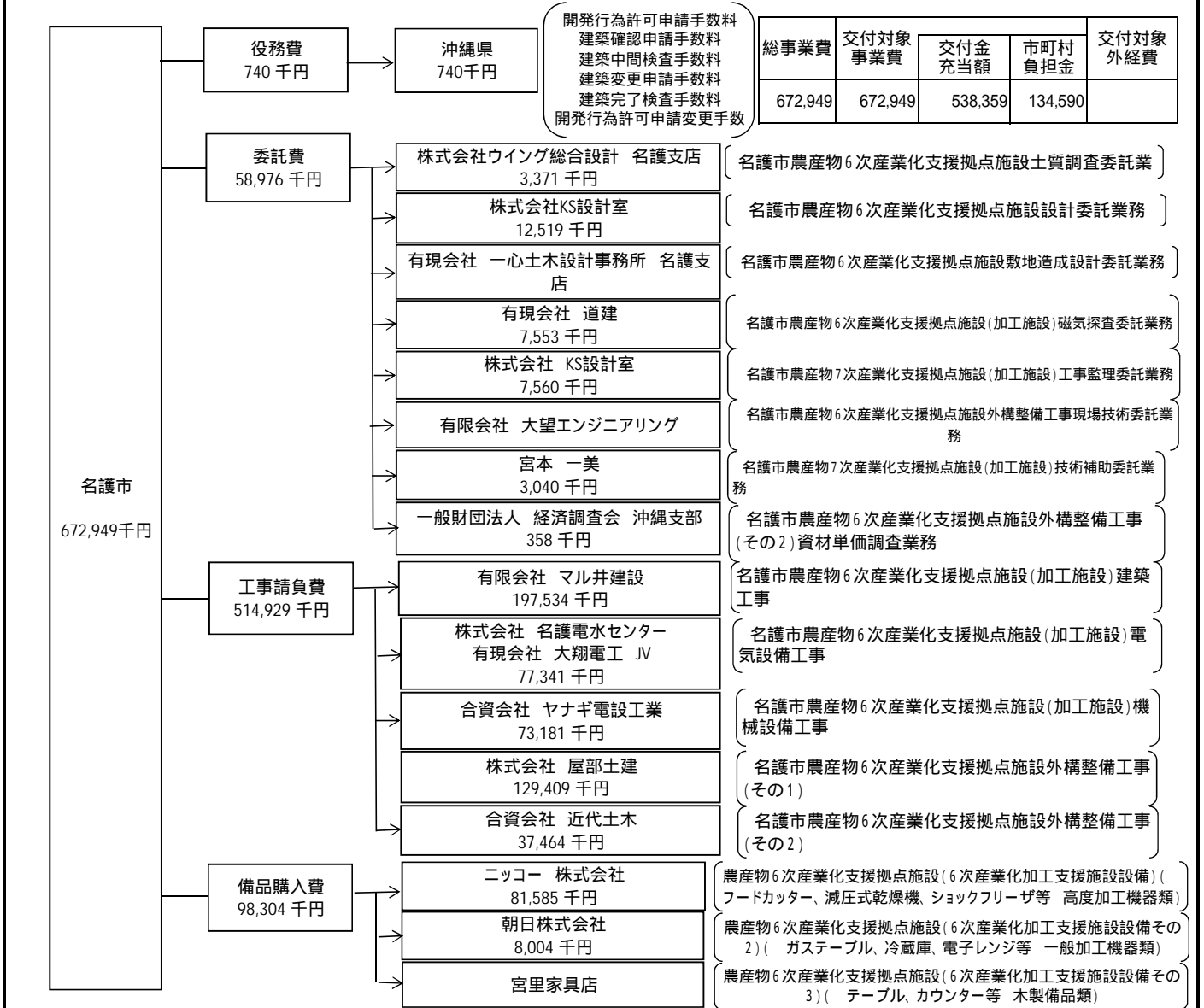
市町村名		名護市						
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4 - 農産物6次産業化支援拠点施設整備事業(アグリパーク)		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(7)-キ			
	担当部課名	産業部 農政畜産課		事業実施(予定)年度 平成24～26年度		フロンティア型農林水産業の振興		
				沖縄振興基本方針該当箇所		-1-(6)		
事業内容		名護市の農家所得の減少、就農者数の減少、農産物全体の粗生産額の著しい低下等の課題解決を目的に、6次産業化と観光とを融合したアグリパークを整備する。						
実施方法		直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）	予算の状況			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
		(a)当初予算額		658,738	-			
		(b)予算現額		692,054	-			
		(c)増減額(b-a)		33,316	-			
		(d)前年度繰越額		-		688,173		
		A.計(b+d)		692,054		688,173		
		B.執行済額		3,881		669,068		
		うち交付金充当額		3,104		535,255		
		次年度繰越額		688,173				
		執行率(%) (B/A)		0.6%		97.2%		
予算の状況の説明		本施設のインキュベート室には、市内で6次産業化に取り組んでいる農業生産法人等が入居予定である。当該法人等が入居にあたって施設に求める機能が多々あり、その中には特殊な機器等も含まれていた。しかし、インキュベート施設という性質上、後年の利用も踏まえた汎用性を確保する必要があるため、入居予定企業が求める機能と汎用性を確保する必要があり、機器等の選定に時間を要した。結果として機器設置に伴う部屋割、水道配管、電源位置決定等の建築設計に係る部分に遅れが生じた。設計段階において、細部の調整等に予定以上に時間を要したため繰越となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度		
	拠点施設敷地造成設計、拠点施設設計、土質調査等の実施	目標	施設設計、敷地(造成設計、土質)調査、磁気探査	()	()	()	()	
		実績	各種設計業務、調査業務の実施、完了					
		目標	()	()	()	()		
	実績							
達成状況説明	施設設計委託業務、敷地造成設計委託業務、土質調査委託業務、磁気探査業務、資材単価調査業務を実施し、完了することが出来た。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)	
	農産物6次産業化支援拠点施設の建設着手	目標	(-)	建築工事、土木工事	()	()	()	
		実績		各種工事の着手、完了				
	【参考指標】 インキュベート室:入居者の事業計画に基づく加工品の売上額 加工研究室:年間利用件数		目標	()	()	()	()	-1:インキュベートA室:61,320千円 -2:インキュベートB室:58,950千円 240件
		実績						
進捗状況説明	建築工事、電気設備工事、機械設備工事、外構整備工事(その1)、外構整備工事(その2)に着手し、平成25年度中に完成した。加工支援施設については、平成26年6月から供用開始する。今後、本施設では、稼働後3年後(平成28年度)の中長期目標を、インキュベート室においては、入居者より提出される事業計画書の収支計画(加工品全般の販売計画等を含む)に基づき、売上額が収支計画の目標値を達成するよう設定し、加工研究室においては、施設利用件数を年間240件として設定し、農業の6次産業化の推進に資する加工支援を行う。							

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	本事業では、設計業務に関連する機器(備品等)の選定において、入居企業想定業務内容と汎用性の両方を確保するため、情報収集等の業務に予定以上の時間を要した。 また、供用開始されたインキュベーション室および加工研究室については、事業効果を高めるため、積極的に活用してもらふ必要がある。	備品選定においては、事業内容に精通した専門家を実施設計当初から確保することで、事業執行の効率を上げることができる。方法としては、委託設計業務の中に内容を含めて発注する、又は公共機関の支援団体等より協力をいただくなどの工夫が必要である。 また、インキュベーション室および加工研究室を積極的に活用するには、市としての広報活動もさることながら、指定管理者および入居者の周知活動も重要であり、連携を図る必要がある。

今後の取り組み方針

今後の事業執行において、設計業務を円滑に進めるため、その進捗に大きく関与する機器(備品等)選定において、入居予定企業の希望と汎用性を確保するためには、機器の性能や能力等の情報に長けた専門家(加工機械であれば6次産業化プランナー等)を活用することで、機器決定までの時間短縮を図り、速やかな事業執行を行う。
なお、周知活動については、指定管理者においてパンフレット作成およびホームページ作成を行っており、パンフレットについては市内公共機関はもとより、市内の観光関連施設等に積極的に配布を行っている。今後は市外の関連施設にも配布を行い、成果目標達成のため、周知徹底につとめる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流点・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○加工支援施設は、衛生度の高い施設とするため複雑な設計内容となっており、その内容を建築工事に反映させるため、工事監理委託業務は、設計業務を担当した業者と随意契約を締結した。 ○工事監理委託業務を除き、業者選定は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・用途に関して、いずれも事業目的達成のために必須であり、予算規模も額の確定時において確認し、適正であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	